

日時：令和5年11月15日（水曜日）15時45分から17時まで

場所：高浜高校 会議室

【次第】

- 1 学校長あいさつ
- 2 委員紹介
- 3 本校の教育活動報告及び情報提供並びに意見交換（全日制・定時制）
- 4 スクールポリシー（全日制・定時制）
- 5 コミュニティ・スクール
- 6 今後の予定・その他

【配付資料】

- ① 令和5年度 第2回学校運営協議会（11月15日）
- ② 広報誌 第113号（全日制）
- ③ 令和5年度 学校評価報告書（全日制）
- ④ 令和5年度 学校評価報告書（定時制）
- ⑤ 各グループの取組内容（全日制）
- ⑥ 各グループの取組内容（定時制）
- ⑦ スクールポリシー資料（全日制）
- ⑧ スクールポリシー資料（定時制）
- ⑨ 令和5年度コミュニティ・スクール説明会開催要項

【出席委員】

- ・川口 英一 様（学校法人 鶴嶺学園校長）
- ・赤部 勉 様（平塚市地域作業所連絡会会長）
- ・伊藤 みゆき 様（高浜高校同窓会長）
- ・牛久保 浩一（高浜高校校長）

【教職員】

- ・丸野 眞琴（副校長）
- ・内藤 朋子（事務長）
- ・神橋 憲治（定時制教頭）
- ・八木澤 裕基（全日制総括教諭）
- ・古賀 裕美（全日制総括教諭）
- ・武井 勝（全日制総括教諭）
- ・遠藤 美代子（全日制総括教諭）
- ・露木 雅史（全日制総括教諭）
- ・漆原 誠（定時制総括教諭）
- ・鈴木 康晴（定時制総括教諭）

【欠席委員】

- ・田中 千勢子 様（須賀公民館館長）
- ・平出 善男 様（平塚市立太洋中学校校長）

- ・松岡 俊 様（産業能率大学 情報マネジメント学部教授）
- ・内海 明 様（高浜台自治会長）
- ・坂本 飛鳥 様（高浜高校定時制 PTA 会長）

●本校の教育活動報告及び情報提供並びに意見交換

○校長

- ・前回（5月）の実施時には、前年度の学校評価および今年度の学校目標、課題等を話した。11月となり、年度の途中となるため、学校に関する進行状況および中間報告を実施する。ご意見、ご提言等をお願いしたい。
- ・在籍生徒数、全日制 685 名、定時制 93 名となっている。全日制は学年制であるが、定時制は単位制となっている。そのため、「3年生」ではなく「3年次」というような表現となる。
- ・学校行事の実施状況について、前回の学校運営協議会以降について、全日制は6月に体育祭、7月に1学期期末試験およびパシフィコ横浜（6月実施）にて全公立展を実施した。全公立展は定時制も参加した。定時制は前期、後期となっているうち前期中間試験、3年次修学旅行が6月に実施された。
- ・文化祭を全日制は9月、定時制は11月に実施した。どちらも生徒が主体的に行動している様子が見られた。予想よりも一生懸命取り組んでいる生徒が多かった。
- ・全日制の部活動について、加入率が年度当初 52.5%となっている。弓道部が12月に実施される全国大会への進出を決めた。
- ・他校、地域交流について、ボランティア活動等として、授業として設置している社会福祉基礎（3年生）を選択している生徒および手話コミュニケーション部が特別支援学校および近隣のイベント等に参加し、日ごろの学習および取り組みの成果を発揮している。
- ・部活動では単独で編成できない部活動ではあるが、サッカー部、ソフトボール部が合同チームを編成して積極的に活動している。
- ・総合的な探究の時間に、港地区の方々にご協力をいただき、「須賀さんぽ」として近隣の歴史や地理について学習する機会をいただいている。
- ・地域貢献活動として、全日制、定時制ともに近隣の清掃活動を実施した。特に定時制は夕方からの活動となってしまうため、同窓会からいただいた反射板付きのベストを着用し、活動を行った。
- ・90周年記念行事を来年度実施する予定である。記念誌作成、式典の実施について各係が分担し、計画を行っている。
- ・卒業後の進路について、卒業予定者は全日制 220 名、定時制 22 名となっている。定時制は3年間で卒業する生徒と4年間で卒業する生徒がいる。おおむね全日制は4分の3程度の生徒について進路が決まった状態である。例年より専門学校希望者が多い傾向にある。定時制についてはこれから決定していく傾向にある。
- ・入学者選抜について、これから高校入試が始まるため、さまざまな準備を行っている。今回の入試から、願書の提出がWebによる出願となるため、教職員だけでなく、中学校も新たな対応が必要となっている。そのため、受検票の発行もWebによる発行となる。
- ・募集人員について、全日制は昨年度より1名増加し、232名、定時制は70名となっている。全日制については、在県外国人等特別募集として7名の定員枠がある。

- ・現在、駐輪場の新設を行っていて、現在工事中となっている。また、老朽物品への対応を県として行っているが、本校としては生徒が使用する下駄箱を一斉に変更する予定となっている。
- ・学校目標の達成状況について、全日制は各グループが取り組んできた状況について別紙のとおり記載されている。教務、進路関係のグループについては生徒の学習、進路について対応している。活動支援では、さまざまな行事を円滑に実施した。また、生徒会本部役員選挙では、生徒会長、副会長の立候補者が複数いたため、生徒が学校に目を向け、意欲的に活動しようとする姿勢が見られている。生徒支援では、日ごろからの生徒指導と同時に、今年度よりサポートドックを実施した。生徒の悩み、負担などを把握するとともに、スクールカウンセラー等へ適切につながるような対応を行っている。広報・連携では、学校説明会だけでなく、手話コミュニケーション部の生徒が中学生に講師役として手話を教える特色授業体験を実施した。
- ・定時制では年度当初の目標に対する中間結果を別紙に記載してあるが、おおむね目標に対する実施状況が完了している。定時制の生徒に対して夏期講習を行い、基礎学力の定着だけでなく、サッカー観戦を取り入れ、生徒が参加しやすい状況を考えて対応した。全日制と同様に、サポートドックも実施し、生徒個々の様子に目を向け、対応するようにしている。また、他校の定時制は45分授業が多いものの、本校では50分授業を展開し、生徒の学ぶ機会を十分に設けるようにしている。

○伊藤委員

- ・今回、全日制と定時制の両方の文化祭に参加した。ゆかり会として全日制との生徒よりも定時制の生徒との関わりが増えてきて、定時制の様子を把握する機会ができてきた。全日制の生徒も定時制の生徒も学生生活を楽しんでいる様子を感じることができた。その上で、ゆかり会としてどのような支援、協力ができるのかを考える必要があることも感じた。
- ・弓道部の生徒が全国大会に出場するが、現役の生徒にゆかり会から何かしてあげるのではなく、現役の生徒が必要としていることに対して協力をしていき、生徒の頑張りを応援し、見守る機会を作るために、先生方にそのようなチャンスを頂けるようにしていただけたらと思う。学習の成果についてはあくまで結果であるため、がんばっている姿を応援することが同窓会としての役割でもあると考える。同窓会がある意義は、後輩のために、高浜高校に何ができるのかを考えることであるため、その模索を今後も行っていきたい。

○赤部委員

- ・全日制、定時制に関係なく取り組めることが多くあるため、それぞれができることを継続して実施していただけたらと考えている。

○川口委員

- ・全日制、定時制が同じ敷地内にあるが違う学校であると考えている学校もあるようだが、校舎、教室は異なっても、同じ教育活動を行っていることは変わりないため、全日制しかない学校よりもよりよい教育活動ができるのではないかと考えている。
定時制について、生活体験発表会が川崎市内で実施され、高浜高校定時制の生徒が発表されていた。発表について、一人ひとりが高校生活、人生の主人公であるという内容が含まれている素晴らしい発表であったが、会の最後に講評が行われた際、その発表の内容につ

いて触れていた講評となっていたため、とても印象に残った。

- ・ 8月17日の神奈川新聞で生徒の自己肯定感を高める授業実践について紹介されていた。生徒の成長体験が得られる場としての内容であったが、授業での成功体験は授業での基本であるため、先生方がそのための努力と同時に、生徒への一方通行ではない授業の展開の重要性をあらためて考えた。

●学校目標について

○校長

- ・ 神奈川県では、4年に一度、学校目標について検討を行い、実施していくこととなっている。その中で、各学校に課せられた使命である「スクールミッション」、各学校がどのような生徒を育てていくのかという「スクールポリシー」の策定が必要となる。
- ・ 全日制について、スクールミッションについては、県から定められた内容となっているが、現時点では県からは前回の内容から大きな変更がない形で示されている。全日制について、教育課程の編成である「カリキュラムポリシー」について、学ぶ力、つなぐ力、関わる力を柱として、生徒を育成していくことを基本としていきたいと考えている。また、4年間の中で在県生徒特別募集が入ってきた経緯があることと、来年度は通級による指導が入ってくることで決まっているため、生徒個別の状況によって必要な対応をどのように行うのかといった内容を追加しようと考えている。
生徒に身につけてほしい力として、基礎学力とコミュニケーション能力がある。人と話をして自分の考えを表現する力を大切にしていきたいと考えている。そのために、学校行事やさまざまな活動を展開し、その力を伸ばしていくことが必要であると考えている。各授業でも、自分の考えをさまざまな形で表現する時間を設けている。入学者の受け入れについては、内容を整理し、簡潔にまとめるようにした。
- ・ 定時制については、細かな内容を整理し、簡潔にした文言として作成した。カリキュラムポリシーについて、さまざまな生徒が在籍しているため、スタンダードコース、プログレスコースの内容を簡潔に説明できるように記載した。アドミッションポリシーについて、キーワードとして必要な「学力を身につける」「社会のルールを守る」といった内容を記載するようにした。
- ・ これらについて、今回説明した内容についてご確認いただいた上で、本校に対してさまざまなご意見等を頂く機会を設けていただけたらと考えている。あらためて郵送により、ご意見いただけるように対応する。

○伊藤委員

- ・ 高浜高校の生徒の傾向として、あいさつができるなど、とても良い生徒が多くなってきている。後輩たちのために何かしてあげようと思う気持ちが持てるような学生生活が送れるような内容となっていてほしい。また、生徒本人にとって、高校生活が思い出となるような内容となっていてほしい。学校側の思いと、生徒側の思いに違いがあるはずなので、その部分は学校側が理解した上での対応をしていただけたらと思う。

○赤部委員

- ・ 生徒が活動する場をたくさん作り、現場を知るといよりも、ボランティア活動や福祉

の心を知るという機会を生徒が学べるような内容となっていてほしいと思う。

○川口委員

- ・年代によってさまざまな意見が出てくることはあるが、課題を抱えていない生徒はいないことは事実としてある。そのことを先生方がいろいろな形で支援し、同窓会などが違った角度からの支援があり、生徒のニーズに合致するとよりよい状況につながるのかと考える。

●コミュニティ・スクール開催要項について

○校長

- ・コミュニティ・スクールについて、この役割や他校の様子について知っていただき、アンケートにご回答いただけたらと考えている。

●今後の予定・その他

- ・次回の開催は来年3月22日を予定している。入試業務の関係でこの日程となってしまいが、ご検討いただけたらと思う。

閉会